総務常任委員会 行政視察報告書

総務常任委員会では、浜松市と仙台市を行政視察しました。
概要は以下のとおりです。

（実施期間）令和８年５月13日～令和８年５月15日
（視察都市）浜松市、仙台市
（視察内容）浜松市　　デジタル・スマートシティの推進における取組等について
　　仙台市　　防災環境都市づくりについて
　　せんだい３.11メモリアル交流館について

〔浜松市〕

浜松市では、デジタル・スマートシティの推進における取組等について説明を受けた。

浜松市では、浜松市デジタルファースト宣言に基づき、都市づくりをデジタルファーストで進める指針として策定し、多くの方々と共有し、官民共創でデジタル・スマートシティ浜松の実現を目指しており、現在は、第二期浜松市デジタル・スマートシティ構想の中で、デジタル庁の地域幸福度（Ｗｅｌｌ－Ｂｅｉｎｇ）指標の考え方を取り入れ、４つの重点取組分野を掲げている。

推進体制については、官民連携組織と庁内組織に加え、外部の有識者８名をデジタル・スマートシティフェローとして委嘱し、様々な協力をいただいている。

さらに、アイデアレベルから実装までを支援する、Ｈａｍａｍａｔｓｕ　ＯＲＩ－Ｐｒｏｊｅｃｔをはじめとした支援を行うとともにデータを活用した様々な取組を行っている。

データ利活用のユースケースが少ないことや指標の具体的な活用フローの整理が課題であり、今後は、データ利活用促進による地域課題解決のための取組の推進や市民に対する指標の理解・認識の浸透を図っていくことを考えている。

委員からは、高校などと連携した取組の今後の展開や事業者からの事業提案に関することなどについて質問が出された。

（浜松市での視察風景）

〔仙台市〕

仙台市では防災環境都市づくりとせんだい３．11メモリアル交流館について説明を受けた。

仙台市では、東日本大震災後、新しい防災環境都市を目指すことが示され、震災復興計画では４つの方向性を定めた上で、しなやかでより強靭な都市の構築を明記した。平成27年には国連防災世界会議において、仙台防災枠組2015－2030が採択された。

防災環境都市づくりは、まちづくり、ひとづくり、伝承を３本柱として各種事業を展開している。まちづくりでは、多重防御・避難・移転の３つを掲げて対策を講じるほか、ひとづくりでは、地域防災リーダーの育成・仙台版防災教育の推進・仙台防災枠組講座など様々な取組を進めている。また、経験と教訓の伝承等として、防災環境都市づくりを国内外に発信することで、日本や世界の防災・減災に貢献している。

さらに、震災メモリアル事業として、仙台市震災復興メモリアル検討委員会の提言を基に、東日本大震災の経験と教訓を、震災遺構の保存等を通じて後世に広く伝えていく取組も実施している。せんだい３.11メモリアル交流館については、地下鉄仙台東西線荒井駅舎内に平成28年に整備したもので、常設展示のほか、年に数回の企画展や、イベントを通じて伝承活動にも積極的に取り組んでいる。また、仙台市立新荒浜小学校等の震災遺構の保存や職員間伝承も行うほか、中心部震災メモリアル拠点の整備も予定されている。

今後は、ＭＣＲ2030レジリエンス・ハブ認定や2027年アジア太平洋防災閣僚級会議の仙台開催などが予定されており、経験と教訓や防災環境都市づくりの取組を世界に共有することを目指している。

委員からは、東日本大震災時に避難者もいた仙台東部道路に関することなどについて質問が出された。

（仙台市での視察風景）